

# できること もちよりで行こう!

[草の根ささえあいプロジェクト]

連載  
Vol.2



## 左回りの支援、右回りの支援。

「社会的孤立や貧困に至るプロセス及び支援のメカニズムに関する調査」とは? 「人とのコミュニケーションがうまくいかず孤立してしまう人」、「困り事を周りに相談できず、ますます困窮してしまう人」、「解決の手助けをしても、また同じトラブルに陥ってしまう人」—これらの生きづらさを抱える人々に対し、「仕方ないよね…」と放置せずに、みんなで手助けを続けていくためのヒントを得るために行った調査です。

### 一般社団法人 草の根ささえあい プロジェクト

〒453-0041  
名古屋市千代田区本陣通5-6-1  
地域資源長屋なかむら  
TEL/FAX: 052-462-1281  
E-mail: kp.grassroots@gmail.com  
HP: <http://grassroots.jimdo.com/>

執筆者:  
一般社団法人 草の根ささえあい  
プロジェクト 代表理事 渡辺ゆかり



「社会的孤立や貧困に至るプロセス及び支援のメカニズムに関する調査報告書」  
発売中です!お申し込みは  
[kp.grassroots@gmail.com](mailto:kp.grassroots@gmail.com)  
まで。  
定価¥1500(送料込)

私たちは、活動を始めたばかりの2年前、様々な分野で支援に関わる人が、現場で共通した「行き詰まり」を感じていることを知り、調査を始めました。

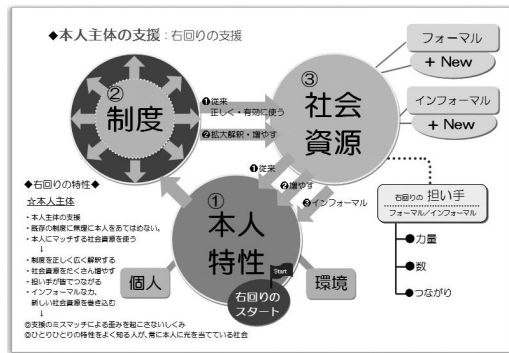
社会的孤立や貧困に陥る方が、どのような環境で人生を歩み、どんな心的プロセスを経てきたのか。またプロセスにおいて、「社会」や「支援者」と呼ばれる人たちは何をしてくれて、何をしてくれなかったのか。まずそれを知るために、障害・ホームレス・権利擁護・就労・医療など、14分野53団体の支援機関に出向き、現場の支援者から140件に及ぶ「成功事例」「失敗事例」を聞きとり、調査分析をしました。

### 左回りの支援(制度ありきの支援)と 右回りの支援(本人主体の支援)

調査の結果、つきつけられたのは、社会や私たち支援者が、いかに自分たちの常識や専門分野のカタチ(範囲)に、困り事を抱えた人をはめこもうとしているか、そして、それに当てはまらない人には「困った人」というレッテルを貼ることで解決をあきらめているという事実でした。私たちは、この支援者による当てはめ現象を「制度ありきの支援～左回りの支援～」と名づけ、反対に本人の希望からスタートし、本人が必要とする支援を多様な担い手为实现させることを「本人主体の支援～右回りの支援～」と名づけ、モデル化しました。

「制度ありきの支援」は、「社会資源=支援者」がスタートになっています。①社会資源の不足や支援者の力量不足を背景に、②知っている制度や機能している制度、支援者にとって使いやすい制度に当事者をはめこみ、③たとえそれがミスマッチであっても、当事者は与えられた支援に自分を当てはめざるを得ず、結果的に社会や支援のひずみを受けて、問題がますます悪化していくループを示しています。

一方「本人主体の支援」では、「本人の希望や特性(個人特性・環境特性)」からスタートします。①当事者の希望や想いに応えるために、丁寧な聞き取りのもと信頼関係をつくり、②既存の制度を正しく適用したり、拡大解釈しやすしたり、拡大の交渉をしながら当事者にマッチするよう使い、③それでも埋まらない支援の穴に対して、既存の枠にとらわれず、常に斬新な発想で担い手や方法を追求し、あらゆる社会資源を当事者のニーズに応えるものに変えていくループを示しています。



本人主体の支援は、当たり前のように見えるかもしれませんが。しかし個々の希望に合わせて、今ないものを探し、創造していくことはとても難しく、時間とエネルギーを必要とします。ひとりの支援者の力では決して実現できず、何より「柔軟でフットワークの軽い、顔の見えるネットワーク」の存在が不可欠なのです。

次回からは、本人を中心とした支援に必要なネットワークの在り方や、調査から見えてきた支えあいの4つの機能についてご報告します。

